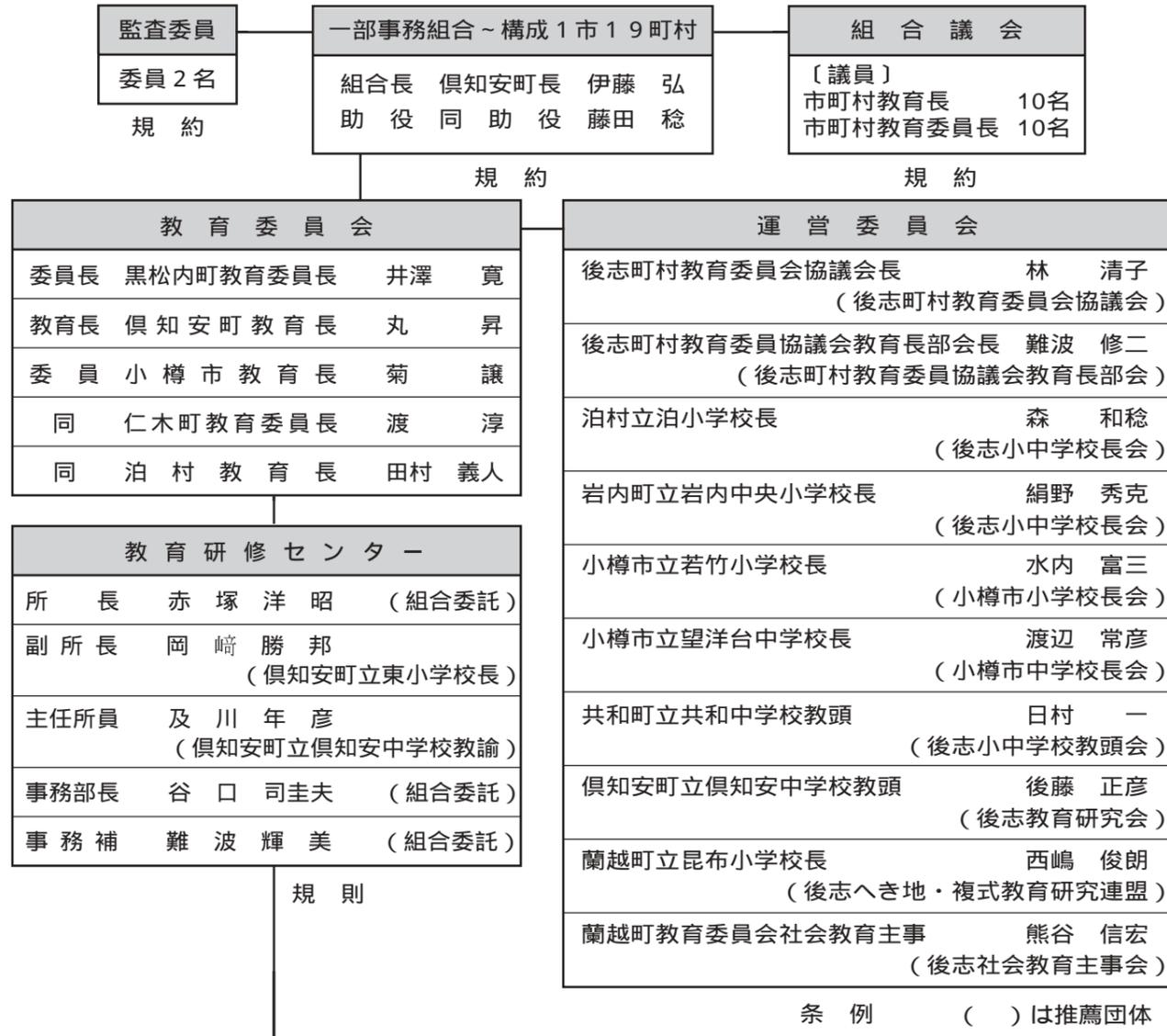


後志教育研修センター組合 機構図

平成18年6月30日現在



研 修 セ ン タ ー 所 員			
小樽市立高島小学校長	菊池 敏明	余市町立西中学校教諭	市川 芳克
小樽市立望洋台中学校長	渡辺 常彦	余市町立大川小学校教諭	植木 義明
俱知安町立西小学校教諭	明村 秀之	俱知安町立俱知安小学校教諭	植松 真将
岩内町立岩内第一中学校教諭	山本 俊次	余市町立旭中学校教諭	佐川 聖明
俱知安町立俱知安中学校教諭	佐々木 淳	二セコ町立二セコ中学校教諭	田村 仁
余市町立黒川小学校教諭	宇野 嘉純	古平町教育委員会社会教育主事	小原 和之
寿都町立寿都中学校教諭	川田 賢一	岩内町教育委員会社会教育主事	濱上 俊治
俱知安町立東小学校教諭	芳川 卓巳	俱知安町教育委員会社会教育主事	五十嵐邦春
俱知安町立北陽小学校教諭	中村 和男	寿都町教育委員会社会教育主事	渡部 恒久

規 則

後志教育

No.138

～主な内容～

1. 巻頭言
2. 研修センター機構図
3. 新任所員挨拶
4. 新任先生奮闘記
5. 実践の広場
6. 学校紹介
7. 研修講座の風景
8. 調査研究事業について

体育大会
『長なわとび』
古平町立古平中学校



運動会
『よさこいソーラン』
真狩村立真狩小学校

お茶を飲みますか？



後志教育研修センター
副所長 岡崎 勝 邦

著名なルポライターのほうが、若い頃ハンセン病患者の取材に行かれた時、患者の方がいれたお茶を飲めなかったという話をされたことがある。この方は患者の方々の名誉回復のために尽力されたのだが、当時の自分の深層意識というか感情の奥底を自覚され自覚の意味で話されたのである。

教特法で、教員は「絶えず研究と修養に努めなければならぬ」とし「研修を受ける機会が与えられなければならない」となっている。そして研修とは研究と修養の略語であるといわれている。辞書を見ると、修養とは「学問を修め品性を養い高めること」「精神を練磨し、高度の人格を形成するように努めること」とある。教員が児童生徒の教育に携わることからすれば、当然であろう。

現在、全国の学校で「子供の特別な教育要求に応える」特別支援教育に対応した取り組みが始められている。

この特別支援教育の考えは、国際的には「特別ニーズ教育」といわれるものであり、一九九四年のサラマンカ宣言とともに「特別ニーズ教育に関する行動のための枠組み」が採択され、各国がこの枠組みに従って取り組んでいるものである。「特別ニーズ教育」の理念はすばらしいが、大切なことは理念を実現するための努力であると思う。人間は言葉だけでなく、行動で本当の意志や気持ちを示すことが多いのである。教師が自分の本当の気持ちを自問自答しながら教育に携わることが今ほど必要なきはないと思っている。



後志教育研修センター
所長 赤塚 洋 昭

新しい年度を迎え、後志管内の教職員の皆様、社会教育指導者の皆様には、新たな思いをもってお仕事に取り組みでお願いすることと拝察いたします。

後志教育研修センターにおける昨年度の事業は、北海道教育庁後志教育局はじめ各市町村教育委員会、各教育関係機関・団体等のご支援・ご協力により、滞りなく終了することができました。改めて厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知のように、当研修センターは、後志管内二〇市町村が管内の教職員、社会教育指導者等の資質向上に役立つ研修事業と管内教育の充実・振興に必要な調査研究事業を共同で実施することを目的として設置されたものです。この目的の達

成を目指し、快適な研修の場と教育情報の提供に努めるとともに、『親しまれる研修センター』を標榜し、より一層、研修講座や調査研究事業の改善・充実を図り、日常の教育実践に役立つよう鋭意努力して参りたいと考えております。

この度、後志教育研修センターの所員を務めさせていただくことになりました。後志教育研修センターはこれまでその時々の教育課題の解決に資する調査研究事業や研修講座を通して管内教育の充実・発展とともに、管内教職員の資質向上に大きな役割を果たしてきました。

親しまれる研修センターを目指して

今年度の主な事業

研修講座事業

学校教育関係 27 講座、社会教育、幼児教育各 1 講座の全 29 講座開講しています。詳しくは年度当初お配りした開催要項をご覧ください。

調査研究事業

学校教育関係 2 つ、社会教育関係 1 つの課題を取り上げ、研修センター所員を 3 つの委員会に分け推進しています。詳しくは本所報 P 12 をご覧ください。

後志管内教職員夏季研修会

主 催：後志教育講演会実行委員会
日 時：8月8日(火) 13:30～15:30
会 場：第一会館プラザホール
講 師：ダニエル・カール氏
演 題：「ふるさとの国際化」
すでに、各学校にポスターを送りましたので、そちらもご覧ください。

所報「後志教育」

年 3 回発行予定です。

●●新任所員挨拶●●

新所員になって



小樽市立高島小学校
校長 菊池 敏 明

この度、後志教育研修センターの所員を務めさせていただくことになりました。後志教育研修センターはこれまでその時々の教育課題の解決に資する調査研究事業や研修講座を通して管内教育の充実・発展とともに、管内教職員の資質向上に大きな役割を果たしてきました。

新所員になって



倶知安町立倶知安小学校
教諭 植松 真 将

この度、後志教育研修センター所員として、心の教育研究委員会の一員に加えていただきました。変化の激しい時代において子どもたちが将来の展望を持ちにくくなっている中、心の教育の大切さを感じています。と同時に、心という文字や数字では表しにくい部分の教育をどのようにしていったらよいかという難しさも感じております。自らの思いや願いを心豊かに表現する力を育てるために同委員会の先生方と共に研究を深めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新所員になって



余市町立旭中学校
教諭 佐川 聖 明

この度、後志教育研修センターの所員として、研修の機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。

さて、教育を取り巻く現状は社会の変化とともに日々変化しており、教師の力量も問われるわれわれにとって、厳しい状況となっております。さらには、生きる力の育成とともに確かな学力の向上など課題は山積みであります。

故にその職責の重大さにプレッシャーを感じておりますが、皆様方からのご指導のもと、後志教育発展に貢献できるよう努力していきますので、よろしく申し上げます。

新所員になって



余市町立大川小学校
教諭 植木 義 明

今年度より、後志教育研修センターの所員として、学習する機会を与えていただくこととなりました。

子ども達を取り巻く環境が様々な変化を続ける中、教育本来の目的である「子ども達の幸せ」のために何ができるのかを、学校現場を基盤としながら、様々な視点でしっかりと考えて参りたいと思っております。

学習指導委員会の先生方と共に、基礎・基本を大切に学習過程や評価のあり方を考え、実践していけるよう努力して参りますので、どうぞよろしく申し上げます。

新所員になって



ニセコ町立ニセコ中学校
教諭 田村 仁

この度、後志教育研修センター所員として、学習指導委員会の一員になりました。今日まで、二度の定例会議に出席させていただきました。今日まで、諸先輩方の話す内容の奥深さと研究を進めようとする熱意に驚かされるばかりでした。自分はその場にいることが不思議で、場違いであるようにさえ感じられました。しかし、この研究は、「子どもたち」のためのものであり、大切なことだと痛感させられました。教員になって十五年目を迎えました。もう一度初心に戻って、学んでいきたいと思えます。頑張りますので宜しくお願いします。

新所員になって



岩内町教育委員会
社会教育主事 濱上 俊 治

この度、後志教育研修センター所員として微力ながら社会教育に携わることになりましたので、どうぞよろしくお願いたします。

平成十八・十九年度の研究テーマ「社会教育事業の評価の在り方」の調査・研究に際し、研究所員等が中心となり、管内の社会教育関係職員の協力を得ながら作業を進めて参りたいと考えています。

各ブロックでの実践とその結果を分析し、事業の評価のうえ、指標、基準を検討し、評価方法の確立に向け、実りある二年間にしたいと思います。

新所員になって



寿都町教育委員会
社会教育主事 渡部 恒 久

教育基本法より広い概念の、国連の「持続可能な開発のための教育の二〇年」の提唱が日本と知りました。

外務省・環境省・文部科学省他が協働意識を持って進めています。現代的な課題に対応するため苦勞する学校同様、省庁も連携なしでは、対応できない世紀に入ったようです。

鳥の目と虫の目をもって、研修に努め、情報提供してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ESD-J を検索してみませんか？

新所員になって



古平町教育委員会
社会教育主事 小原 和 之

社会教育主事として四年目を迎え、社会教育の難しさ、大変さ、そして楽しさを感じながら、なんとかがんばっている毎日でございます。

この度、後志教育研修センターの所員を拝命し、社会教育推進のための研究を行うということで、責任の重さを感じるとともに、自身の勉強のための貴重な機会を頂きうれしく思っております。

他の先輩所員の皆さんと後志の社会教育推進のために全力を尽くしていく所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任先生 奮闘記

「驚馬十駕」



積丹町立美国中学校
教諭 白井尚史

初任者としての三ヶ月が早くも過ぎようとしています。日常子供達と関われば関わるほど、子供達が可愛く見えるようになってくるとともに、子供達に物事を伝える責任を重く感じるようになりました。教科や部活動を経営する中で、子供達をまず理解しないと、興味を引き出したりすることも難しく、また自分の指針をはっきりさせないと、子供達に物事を伝えるのは難しいと実感する日々、そして教師として至らない面が日に日に露呈する日々が続いていますが、こうして出逢えた子供達と自分自身の成長のために、自らの課題を一つずつ解決したいと思っています。

今年度、管内には小学校十二名、中学校十三名、合計二十五名の方々が新任として先生になられました。所報「後志教育」では、No.一三八、No.一三九の二号で新任先生を紹介いたします。

子どものことは本当に好きなので、この職業を選んだことは本当に良かったと思います。これからの失敗をたくさんしていくと思います。それをいかしていきながら、日々成長し続ける教師になりたいと思います。

「心のこもった言葉」



余市町立東中学校
教諭 木谷純平

四月から東中学校に新任として勤務し始め、三ヶ月が過ぎ、私はあることを心掛けるようになりました。それは、生徒に指導する際、「心のこもった言葉」をぶつけるということです。上辺だけの言葉では生徒に何も伝わりません。私は生徒に遠慮せず、感じたことを伝えながら、指導するようにしました。すると、生徒の目にも変化が生じ、真剣に話を聞くようになつてきたことに気づきました。これからは、生徒を見る目を養い、自分自身を磨き続けることで、心に響く指導ができるよう、日々精進していききたいと思っています。

「教師になつて」



共和町立北辰小学校
教諭 菊池佳子

四月から北辰小学校に新任として勤務し始め、あつという間に三ヶ月が過ぎていきました。念願の教師となつて、「頑張らなくては」と思うものの、授業や様々な場面で戸惑うことが多く、日々自分の未熟さや甘さを痛感しています。そのような中でも、十四名の子供達と過ごすことは楽しく、「子ども達の笑顔に支えられながら自分

「生徒が主役の授業」



小樽市立望洋台中学校
教諭 井上真吾

私は「生徒が運動を好きになれるような授業がしたい」という思いで教師になりました。そのため、初めての授業では自分の思い描いていた計画で授業を行いました。しかし、授業はうまくいかず、自分の未熟さを痛感させられる結果となりました。それから「自分の授業はどうしてうまくできないか」と考え、先輩の先生方の授業を見せてもらいました。その経験から、私は生徒の興味関心や能力など考えず、ただ自分の理想の授業をしていたのだと気づきました。

これからは時間をかけ生徒を理解し、生徒に合わせた授業を心掛けていきたいと思っています。「生徒が主役の授業」を目指し、日々努力していききたいと考えています。

「さらなる成長を」



泊村立泊小学校
教諭 飯島竜也

四月に泊小学校に赴任してから、あつという間に三ヶ月が過ぎてしまいました。今は毎日同じ職場の先生方に頼らせてもらいながら、過ごしています。現在私は十四名の三年生の担任をしています。臨時採用の時から数えて、もう三回目の三年生。学習指導では、大きな戸惑いはないものの、相変わらず「ああ、あのときはこう指導すれば良かった。」そんな感想ばかりが出てきてしまいます。そんな未熟な自分だからこそ、これからも教師として成長できるように、努力し続けていきたいと思っています。

「教えつつ学ぶ日々」



小樽市立朝里中学校
教諭 日光貴美恵

「教えつつ学び、学びつつ教える」朝里中学校に勤務して以来、毎日この言葉を思い浮かべながら過ごしています。まだまだ心にゆとりが無く、自分の仕事に迷い悩むことが多い毎日。でも子どもたちの笑顔と先輩の先生方から受けるご支援が大きな糧となり、未熟で学ぶことが多い私には日々充実した価値ある時間となっています。今後は、更なる精進を心掛け、学んだことをひとつひとつ身に付け実践に活かすことで、出逢う子どもたちにひとつでも多く返していけるよう取り組んでいく所存です。

「子どもとともに成長を」



岩内中央小学校
教諭 藤澤英哉

岩内中央小学校に四月から赴任して、早いものでもう三ヶ月が経ちました。昨年一年間は、臨時採用で中学二年生の国語を教えていたのが、今年は小学四年生。指示や発問、配布物・・・全てが今までと違い、戸惑うこともありましたが。今は体と頭を小学校に合わせるため、子ども達とできるだけ多く触れ合っています。子ども達に楽しい学校生活を送ってもらったり、多くのことを学んでもらうため、多くのことを学び、子どもとともに成長していきたいと考えています。

「キラキラの瞳に学ぶ日々」



寿都町立寿都中学校
教諭 赤松恵

赴任から三ヶ月、新しいことの連続で毎日が新鮮です。部活動の後、玄関で子ども達を見送りながら

交わす会話で、一日の終わりをほっとした気持ちで迎えています。

日頃、強く感じていることは、どの子どもも「伸びたい」という想いを持っているということです。「わかる」「できた」「嬉しい」「頑張ろう」と感じたときの子ども達のキラキラした瞳は何よりのパワーの源です。いつも温かく見守ってくださる先輩の先生方、保護者や地域の方々に感謝しながら、学び続け成長するよう努力していききたいと思っています。

「言葉のキャッチボール」



積丹町立美国小学校
教諭 畑中千代香

私の担任する学級では、三年生九名という少人数の中、他人と関わり合う力に不安を感じています。仲が良い反面、自分の思いをきちんと伝えないまま会話を終えてしまうことも多々あります。また、自分の言いたいことだけを一方的に伝え、他人の意見を全く聞かない子どももいます。「言葉のキャッチボール」しっかりしよう」とつい口うるさくなります。相手に「やめて」と意思表示でき、「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える子へ。未熟者ですが、私自身も子どもの声に耳を傾け、想いを伝えられる教師でありたいです。

「心に寄りそえる教師に」



岩内町立岩内第一中学校
教諭 羽田野絹恵

四月から岩内第一中学校に赴任して、早三ヶ月。あつという間に過ぎていきました。授業や部活動などで、毎日子ども達と接する中で、教師という仕事の楽しさと難しさを感じています。子ども達は教師をよく見ているし、教師から受ける影響も小さくありません。教師の些細な一言が子ども達を元気づけたり、傷つけたりすることもあります。子ども達の心に寄りそい、少しでも良い方

「子どもと成長」



小樽市立高島小学校
教諭 本多摩紀

三年生の担任としてこの三ヶ月、運動会を通して、子どもの成長がとても印象的でした。団体競技の練習で負けた時、仲間を批判していた子ども達に、「思いやり」という言葉を教えました。すると、練習の中で、子ども達から「思いやり」という言葉が増え始めました。最後には、負けても友達を批判する子はいなくなり、失敗してしまった友達に、「がんばったね」と言うようになりました。子どもの成長が実感できた瞬間。これぞ、教師の醍醐味！私も子どもとともに成長し合っていこうと思います。

「生徒こそ我が活力」



留寿都村立留寿都中学校
教諭 笠田麻由香

念願の教師になり三ヶ月、ようやく学校での仕事にも慣れてきました。明るい生徒と頼れる先生方に囲まれ、日々多くの事を学ばせて頂いています。私が教師を志したのは中学生の時、初めて勉強した英語の魅力にとりつかれたのがきっかけです。自分が経験した英語の面白さを伝えたいという目標を持ちながら日々研究を重ね、少しでも興味の持てる授業にしようと思いついていました。「英語が楽しい」という生徒の言葉が今の私にとって一番の活力であり、これからもこの言葉を聞き続けられるよう精進していききたいと思っています。

実践の広場

「特別支援教育は全教職員で！」



京極町立京極小学校 教諭 舞子

一、はじめに

本校の校務分掌に特別支援が正式に立ち上がったのは昨年度です。しかし、それ以前から既に取り組みは始まっていました。生活係と研修係共通の「授業を見合う週間（お互いの授業を見合う）」や「交換授業（担任がクラスを交代し授業を行う）」「情報交流会（各学級の実態交流）」など、全教職員が児童の実態把握に努め、共通理解を深めてきました。

中でも三年生女子児童一名については、多くの話し合いがもたれました。当初は支援委員会の中でも、支援方法についての意見の食い違いがあり、なかなか統一性がもてない時もありました。しかし、回を重ねるうちに互いに納得し、共通理解の上で協力して、支援に取り組む事ができるようになりました。また、支援委員会内だけでなく、全校にもその考えが統一されるようになっていきました。

積んできました。

二、昨年度の取り組み

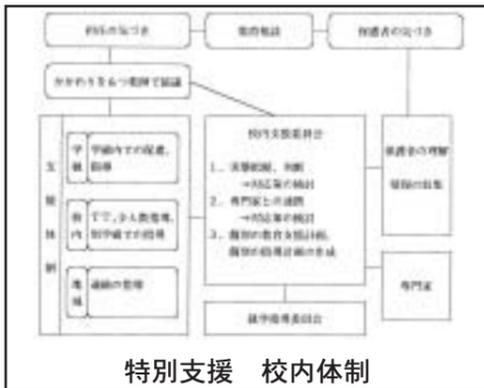
昨年度は、特別支援スタート年度という事で、体制の確立に力を入れてきました。新たに支援委員会が設けられ、五名の児童に対しての方策を話し合い、試行錯誤が繰り返されてきました。

三、今年度の取り組み

今年度は六名の児童について支援委員会を開き、方策を話し合っています。教務、T.T、管理職が毎時間各学級に入り、支援を行ってまいります。必要な児童に対しては、個別指導も行っています。個別指導対象の児童に対しては学期末に、関わる教師全員で評価検討会を開きます。

児童名	支援方法	支援内容
一年生男子	個別指導	授業に合わせた指導
二年生男子	個別指導	授業に合わせた指導
三年生男子	個別指導	授業に合わせた指導
三年生女子	個別指導	授業に合わせた指導
三年生女子	個別指導	授業に合わせた指導
三年生女子	個別指導	授業に合わせた指導

今年度スタート時の取り組み



その他にも、特殊教育センターの講師に來校していただき、指導を仰いだり、全教職員に対しての講演会を開くなど、積極的に研修を

月	活動の主な内容	講師
3月	・特別支援児童の見学・行事	児童
4月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援
5月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援
6月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援
7月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援
8月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援
9月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援
10月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援
11月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援
12月	・特別支援児童の個別支援計画の作成	特別支援

3年女子児童への主な取り組み

四、終わりに

本校の教職員は連携を大切にし、職員室では常に児童の様子を交流しています。私が本校に赴任したのは五年前です。引き継ぎで教頭先生がおっしゃった「全教職員で全児童を育てていきたいと思います。」という言葉が印象的でした。その日から五年、京極小学校ではどんな時も「全教職員で全児童を」という考えの下、進んできています。それが、本校の特別支援教育を推進させる大きな力ではないでしょうか。

実践の広場

「生徒の心の揺れを感じながら…」



神恵内村立神恵内中学校 教諭 増川 佳子

「授業では学習内容を理解しているように、定着しない。」これが、ここ数年の課題でした。今年こそは、「学校でも家でも意欲的に学習できるようにしてほしい。」そんな思いで、四月に全校生徒一人ひとりにノートを配りました。

ノートには、毎時間の目標を記したカードを貼り、授業後に、生徒自身で一〇段階評価をし、一言感想も書いてもらうことにしました。授業後の達成感やつまずき感を把握し、その時の気持ちを知った上で、タイムリーな支援をしたいと考えたのです。「面倒だ。」と思われ、形だけのものになってしまわないかという不安を抱きながらでしたが…

ところが、このノートが予想以上に生徒に受け入れられたのです。できた喜びで力強く一〇マス近く塗り潰す生徒。一マスも塗り潰せなくて〇と一の間一本の線を入れた生徒。どの生

「難しい問題もこれからたくさんとけるようにしたい。でも、自分はどうやって勉強していいのかわからない。」 「もうなんかやになった。」 こんな一言感想を授業の様子を思い出しながら読むことが、職員室にもどつてからの日課になりました。そして、心の揺れを感じながら、赤ペンで、一言感想に対する感想と励ましと解決案を書き入れ、授業に臨み始めて三ヶ月になりました。

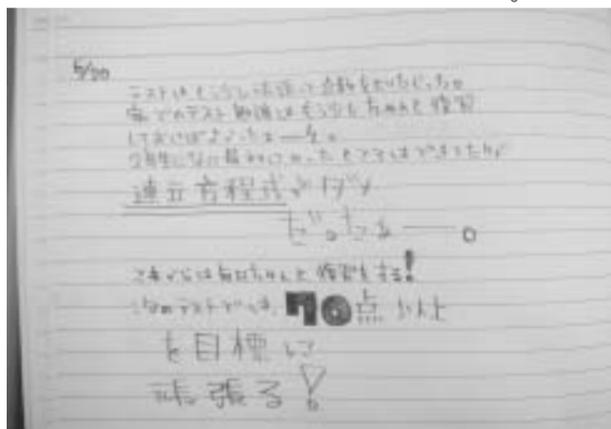
昨年、家庭学習がほとんどできなかった生徒が、期末テスト後にこんな嬉しい感想を書いてく



「計算のやり方は解ったけど、符号を間違ったり、たし算とひき算を間違っているのが多かった。ワークで復習するぞー！」

「今日すげーバッチグー。テストベンきょうして連立方程式かんべきですよ。だけど代入法△だったよー。な…なんじゃこりゃー。でも、ちよつとうれしいよー。今後私は数学ももっとと点数をとりたいです。めざせ七〇点だ。がんばります。」

「難しい問題もこれからたくさんとけるようにしたい。でも、自分はどうやって勉強していいのかわからない。」 「もうなんかやになった。」



「難しい問題もこれからたくさんとけるようにしたい。でも、自分はどうやって勉強していいのかわからない。」 「もうなんかやになった。」



学校紹介 (仁木町立大江小学校)

「心豊かにたくましく 共に生きる大江の子」



仁木町立大江小学校
教頭 三浦卓也



交通安全教育の充実

大江地区は、仁木町の南西、町のほぼ中央に位置し、余市川がつくった河岸段丘の上にある。開拓の歴史は古く、記録によると、一八八一年（明治一四年）長州藩（藩主 毛利元徳）出身の栗屋貞一氏が藩の人々を連れ入植し開拓を進めてきたと記されている。大江小学校は、一八九二年（明治二五年）に端を発し、今年度一四年目を迎えている。現在児童数は二十一名で、複式の三学級、七名の教職員が協力して教育活動にあたっている。

保証された遊びの場

下校した子ども達は、われ先にとグラウンドに集まってきて、年齢差を意識しながら、遊具で遊んだり球技をしたりして、毎日楽しく遊ぶ。時には、少し遅れて中学生も参加し、日が暮れるまでお腹が空くまで遊んでいる。その姿を保護者や地域の誰かが必ず見守っている。不審者等の頻出により子ども達の外遊びが

狭められる時勢に、ここには安心して過ごせる「遊び空間」が保証されている。

校舎前の国道5号線は、昼夜を問わず交通量が多く、また制限速度を超えた車両が後を絶たない。本校には、約七割の児童がこの国道に沿う歩道を歩いて登下校しなければならぬ実情がある。そのため、交通安全教育の充実が重点課題の一つで、交通安全教室の実施やPTA・地域と連携した交通安全キャンペーンの実施を通して、事故から身を守るための意識の高揚を図っている。なお、キャンペーンでは、国道を走るドライバードに、メッセージカードや仁木町名物の「さくらんぼジュース」の配布等を通して安全運転を呼びかける活動を行っている。



家庭・地域と共に歩む学校

本校の特色ある教育活動として、「子ども若鮎太鼓」「小学校・町内会連合運動会」「学芸会」「大江地区クリスマス会」等が、四季を通して行われている。これらの行事には、PTAはもとより大江学園・保育所・桃の会（老人会）・青年会・ロマンカンントリー（地域作りコミュニケーション）・地区学級さらには子供会育成会などの各団体や地域の方々の極めて熱心な協力を得ている。従って、学校としても地域への積極的な関わりや情報発信に努めている。



行事の一つの例として、昨年度の学芸会では、高学年が、総合の時間で学んだ「大江地区開拓の歴史」をもとに、地域の方々の協力を得ながら「大江地区に電気が引かれるまでの労苦」を劇にして発表。参観された方々の中には、当時は思い起こし涙した方も多くおり、また、演じた子ども達自身も地域に対する郷土愛を深めたところである。

学校紹介 (黒松内町立黒松内中学校)

「校舎が変わる 学校エコ改修事業」



黒松内町立黒松内中学校
教頭 高野秀樹



エコ改修

「ブナ北限の里」黒松内町は後志支庁の南端に位置し、函館の商圏の影響も受け、やや独特な環境をもつ町です。本校は昭和二十二年、新学制により三つの分校を持つ黒松内村立黒松内中学校として開校しました。その後、八雲高校の分校の設置・廃止、三村合併などを経て、昭和五十三年、現在の二代目校舎が完成しました。その校舎も二十八年の時を経て、維持経費が嵩むようになってきたこと、近くに断層が存在することから、校舎の耐震化も急務でした。

学校エコ改修事業

建て替えにしろ、改修にしろ大きな金額のかかる事業なのですが、昨年度より、環境省において「学校エコ改修と環境教育事業」というのが始まり、教育委員会が応募したところ、見事

全国十校のうちの一枚に選ばれ、慌ただしく、校舎改修と環境教育の二つの事業がスタートしました。この事業は学校をエコ改修するとともに、これを教材とした環境教育を一体的に実施することで、学校における温室効果ガス、エネルギー消費量の削減と、児童生徒や地域住民への環境教育の実践をしようとするものです。

エコ改修

昨年度後半から学校エコ改修研修会がエネルギー消費の少ない校舎について色々検討を重ね、アドバイザー、町、委員会を交えたなかでプロポーザルコンペが行われ、設計業者が決まりました。夏から校舎の改修工事が始まり、



来年三月には外観も校舎内も現在とはかなり違った校舎が完成する予定です。現在は仮設校舎の建設が真っ最中です。また来年度は体育館の改修と外構工事が予定されています。

環境教育

環境教育については、「地域を知る」「学校を知る」という二面で、取り組むということになっていきます。「地域を知る」は黒松内の地域素材を生かした環境教育を行うということ、今まで行ってきた総合的な学習の時間の取組を生かしながら実施することになっています。さっそく先日、山林種苗組合と森づくりセンターの協力を得て、黒松内のシンボルであるブナの苗木の植樹を実施しました。



また「学校を知る」は改修中の校舎も利用しながら、自然エネルギーの活用や二酸化炭素排出量の低減を考えた省エネルギーについて考えさせていく予定です。

研修講座の風景

今年度は、五月八日の「学級経営中学校」を皮切りに研修講座がスタートしました。すでに六月末日現在で九つの講座が終了しました。いくつかの講座の様子をご紹介します。

『学級経営 小学校』

五月二二日(月)一三日(火)

講師を含めて、十一名の参加がありました。講師の佐古岡先生(俱知安小学校)には、授業も提供していただき、実践的な内容となりました。

講師 半田健一先生(余市町立大川小学校)
佐古岡香先生(俱知安町立俱知安小学校)
安達直樹先生(小樽市立花園小学校)

〔受講者より〕

○学級経営について細かいところまでお話しをしていただき、とても参考になりました。特に学年間での内容の統一等については、とても勉強になりました。また、クラス内での約束事や責任の持たせ方、子どもを上手に使う手立てはとても参考になりました。



○普段考えていることや悩んだことが解決できる実践的な内容だったので、とても勉強になりました。学級経営や学級通信の書き方などいろいろ考えていた気持ちが楽になりました。

『特別支援教育』

六月一三日(火)一四日(水)

講師を含めて、三二名の参加がありました。特別講師として高橋裕氏(札幌高等養護学校長)をお招きして、公開講義も行いました。

講師 松井典彦先生(小樽市立祝津小学校)
岸本教哲先生(喜茂別町立喜茂別中学校)
桂野文良先生(岩内町立岩内西小学校)

〔受講者より〕

○生活や授業の様子をビデオを見ながら解説していただき勉強になりました。私もいつも一緒にいるのではなく、子ども達だけでいる時間を意図的に設けていますが、クラスの雰囲気がとても良くてうらやましいです。

○「特別支援教育」について、いろいろな講演会に参加して話は聞いていました

が、不安や疑問が多く、ありました。今回の講座ではそれらの疑問が減り、「特別支援教育」の在り方が見え、希望が見えて、きたような気がします。

○高橋校長先生のお話は、特別支援教育が今後大きな教育課題となっているのか、子どもの具体的な姿から経営の視点を示してくれ、大変良く理解できる内容となりました。いかに子どもの視線で見直さなければならぬかを改めて教えられたような気がします。もっと多くの先生方に聞かせてあげたいと思いました。



『図工・美術科』

六月一九日(月)二〇日(火)

講師を含めて、二六名の参加がありました。特別講師として村瀬千櫻氏(北海道教育大学教授)をお招きして、講義も行いました。

講師 竹生 元先生(余市町立大川小学校)
佐藤初実先生(余市町立東中学校)
齋藤啓代先生(小樽市立向陽中学校)

〔受講者より〕

○村瀬先生のお話はとてもわかりやすく、資料も長く使えるもので勉強になりました。『研修Ⅱ自分の中に新しい風を取り入れる』ということ、今後も頑張りたいと思います。

○村瀬先生のお話を聞いて、「美術は心の教科なんだなあ。」ということに改めて感じました。「人間性」ということも理屈抜きに、村瀬先生から伝わってきました。私も教えることを楽しみ、笑顔でいられる教師でありたいと思いました。

○水彩での点描は大変楽しかったです。久しぶりに必死になって絵を描きました。色を塗るのはやはり難しいですね。これから少しずつ練習しようと思いました。



研修講座の様子については、センター廊下の掲示板にも貼り出しております。ホームページでもご覧いただけます。ホームページについては、次ページをご覧ください。今後二〇の講座が残っております。皆様の参加をお待ちしております。

調査研究事業について

学習指導に関する研究委員会

研究主題 「基礎・基本を大切にしたい学習展開と評価の工夫」

平成一六年度より、三年次計画の最終年度、まとめの年となります。昨年までの研究は中間報告書七九号に載っております。今年度は、昨年までの理論をもとに、実践検証を中心に研究を推進していきます。

- 委員長 明村秀之教諭(俱知安西小学校)
- 副委員長 佐々木淳教諭(俱知安中学校)
- 書記 宇野嘉純教諭(余市黒川小学校)
- 委員 川田賢一教諭(寿都中学校)
- 植木義明教諭(余市大川小学校)
- 田村 仁教諭(ニセコ中学校)

心の教育に関する研究委員会

研究主題 「自らの想いや願いを心豊かに表現する力を育む」

「自らの想いや願いを心豊かに表現する力を育む」

本研究も学習指導に関する研究委員会と同様、三年次計画の最終年度となります。研究初年度は、教科・特活・総合など教育活動全般での検証を行ってききましたが、昨年より道徳での授業実践を通して検証しており、今年度も実践検証を中心とした研究を推進していきます。

- 委員長 山本俊次教諭(岩内第一中学校)
- 副委員長 中村和男教諭(俱知安北陽小学校)

- 書記 芳川卓巳教諭(俱知安東小学校)
- 委員 市川芳克教諭(余市西中学校)
- 植松真将教諭(俱知安小学校)
- 佐川聖明教諭(余市旭中学校)

※この二つの研究は、道研連第一二次共同研究としても推進していきます。

社会教育に関する研究委員会

研究主題 「社会教育事業の評価の在り方」

二年次計画の研究初年度となります。地域住民の生涯学習支援や生涯学習を通じた地域づくりなどを推進するため、地域住民の声を傾け、社会の要請と地域住民の多様な需要の双方に対応した学習機会の提供や施設整備などを地域住民と協力して主体的に実施することが必要であります。

そのために、社会教育事業全体の実態とその結果を分析し、事業の評価をどのようにしていくか研究を推進します。

- 委員長 濱上俊治社会教育主事(岩内町教委)
- 副委員長 五十嵐邦春社会教育主事(俱知安町教委)
- 書記 小原和之社会教育主事(古平町教委)
- 委員 渡部恒久社会教育主事(寿都町教委)

ご退任された所員の紹介

任期満了等により、七名の所員の方々が、平成十八年三月末日を持って、ご退任されました。長年にわたり、後志教育研修センターの充実・発展にご尽力賜りましたことに対して、深く感謝申し上げます。

- 所員 谷 野 道 治 (小樽市立望洋台小学校)
- 所員 三 浦 卓 也 (余市町立大川小学校)
- 所員 丸 岡 哲 也 (俱知安町立俱知安小学校)
- 所員 山 下 秀 一 (俱知安町立俱知安小学校)
- 所員 近 藤 秀 樹 (留寿都村立留寿都中学校)
- 所員 本 田 亨 (小樽市教育委員会)
- 所員 宮 崎 勝 雄 (共和町教育委員会)

研修センターのHPリニューアルしました
講座の様子や教育情報をのせております。ぜひアクセスしてみてください。
ホームページ <http://www.shiribeshi-etc.jp/>

＜発行所＞
後志教育研修センター
〒044-0013
虻田郡俱知安町南3東4
TEL 0136-22-1337
FAX 0136-22-2681
E-mail skc@cocoa.ocn.ne.jp
<http://www.shiribeshi-etc.jp/>

＜発行者＞
赤塚洋昭

＜印刷所＞
有限会社 いたう文化堂印刷